

はしがき

国立学校財務センターでは、研究部の活動の一環として、外部から講師をお招きして「高等教育計画・財政研究会」を開催してきた。研究会は本年3月で一応終了したが、優れた講演内容は、進行中の大学改革の貴重な参考ともなるものであり、これを、テーマ別に整理刊行して、大学問題に関心の深い皆様のご参考に供することとした。すでに本年3月に、第一集として「大学の財政と設置形態」を刊行し、ご好評をいただいているところである。

本書は、その第二集として、欧米諸国、中国、韓国の高等教育財政と、我が国の教育費負担の現状分析に関するご講演を中心に編集し、「高等教育財政の国際比較」と題して刊行するものである。

講師の諸先生には、ご講演の本書への掲載をご快諾下さり、原稿のご校閲をいただいた。厚くお礼申し上げたい。

行財政改革、大学改革の流れの中で、国立大学の独立行政法人化問題に見られるように、高等教育財政の在り方が、今、改めて問い直されつつある。欧米諸国に比して、我が国の高等教育に対する公的財政支出が少なく、学費負担が大きいことは、これまでも指摘されてきたところであるが、この問題を掘り下げて考える上で、本書所載のご講演が、示唆するところは少なくない。

本書は、第一集に引き続き、研究部長として「高等教育計画・財政

研究会」の企画運営をしてこられた市川昭午教授が編集に当たられたものである。

また、7月から学位授与機構の助教授に栄転された吉川裕美子氏に校正その他のご協力をいただいた。お骨折りに深く感謝申し上げたい。

1999年12月

国立学校財務センター所長 大崎 仁